

＜4時から夢塾＞ =退職校長メッセージ 小林校長より=

第14回「4時から夢塾」は、1月24日(木)に、今町中学校の小林哲朗校長先生から「見附で出会った生徒たち 理科でお世話になった先生方～新採用から20年間の思い出～」という演題で、講話を頂きました。以下は講話の概要です。



◆ 私がとても「運が良い人間だ」ということを話したい。

県教委からU中学校との通知をもらっていたが、変更になり見附中学校に新採用となる。

(1) 見附の思い出を決定づけた生徒仲間思い 前向き リスクを恐れず行動する見附っ子ー ＜エピソード1＞

昭和56年4月、見附中の1年2組45名の担任となる。ある日、1限の道德の時間に、教室に行ったら誰もいない。理由はクラスのT夫さんが東京へ転校することになり、この朝、見附駅から出発をする。その見送りに44名全員が駅に行った。前日に「見送りをさせて欲しい」と言われ、「だめだ」と伝えていたのだが…。生徒たちを追って私(小林)も見附中から2Kmの道のりを走って駅に行き、見送りの後、学校に戻った。(校長先生が「許可」をされたらしい)

＜エピソード2＞

昭和59年から南中勤務になる。3年3組の担任をしている1月のこと。放課後、A子さんに宿題を家に取りに帰らせてしまった。雪道で交通事故に遭い重傷を負って入院生活になった。受験まで時間がない中、クラス全体で受験勉強の支援をして、A子さんが志望校に合格出来た。

(2) 理科でお世話になった先生方 ー羨望 あこがれの先輩たちー

古川正己先生…新採用の見附中で学習研究発表会があり、古川先生がすばらしい授業をする。飲酒を伴う会の度に古川先生の家泊めて頂く。翌朝立ち食いそばを食べ出勤したのが思い出。

舘岡信男先生…理セン専任所員の舘岡先生の手作り教材を使わせてもらって授業を行い、その実践を褒めて頂く。その後も理セン研修に参加しながら、理セン専任所員にあこがれをもつ。

山本 武先生…昭和59年、南中へ転勤する。山本先生は楽しく分かりよい授業をされ、生徒に大人気だった。私を直接励ますのではなく、生徒への指導を通しながら、私にエールを送ってくれる温かい先生だった。山本先生は、昭和59、60年に県センの理科定期研修を受講され、この定期研修を「次は小林の番だ」と推薦をしてくれた。



小西邦明先生…昭和61、62年に県センの理科定期研修を小西邦明指導主事の下で受講をする。厳しかったが充実の二年間だった。定期研修2年目の昭和62年に、今町中に転勤する。授業が楽しくて「研究授業は私にぜひ」と言ったら、ある時、道德をやることになり失敗だった。また、3年生の模擬テストで、理科が突出して高得点で優越感に浸っていたら、実は…

山崎拓二先生…今町小で優れた理科指導をする先生で、高得点は山崎先生の指導の成果の現れだった。いい気になっていた自分が恥ずかしい。今町中6年の後、県セン理科長期研修員を一年。ここで「希塩酸中での銅の腐食ー腐食の速さを支配する要因ー」を課題研究論文で書いた。一般に銅は塩酸に溶けないとされるが酸素があると溶ける。このことを検討したものである。

見附理科センター専任所員…平成6年から見附理セン専任所員となる。見附理センでは、昭和57年から「見附の植物」2冊、「見附の昆虫」4冊を次々に発刊していたが、私が所員の時に、

理科センター創設 30 周年記念誌として「学校や家庭でできる 楽しい飼育と栽培」の(次頁へ)(続き)執筆をした。これは前任の金子満雄先生の仕事を受け継いだものである。退職をしたら、花や野菜作りをしたいと思っている。この本は、そのときに活用をしたい大切なものである。

見附中学校

平成 9 年から 4 年間、見附中に教務主任として勤める。沖野正寛校長の指示で始めた「校門脇を『あじさいロード』に、通学路のコンクリート壁には絵を描く『見中絵道』」のスタートに携われたことが強く思い出にある。

この後 15 年間、市外で 4 ケ校の勤務をする。

今町中学校

平成 28 年に、今町中に勤務となり今日を迎えている。運のいい最後が、最終勤務校として 3 年間、今町中学校に勤められたこと。最初に、私は「運がいい人間」と言ったが、新採用で見附市に勤めたことが生徒にも先生方にも恵まれた教員人生になり、若い時に勤務した今町中学校で、当時の生徒が今、PTA として学校を支えてくれている。誠にありがたいことである。



<参加者の声>

- 初任校で習いました。先生の授業は、分かり易い楽しい授業でした。丁寧で優しさが伝わるお話を聞いて、当時を思い出しました。私も人との出会いを大切に日々、学んでいきます。
- 懐かしいお名前、出来事の中にも初めて何う内容も・・・登場人物の人柄も際立ち、それが自身の人間的な豊かさを表していると感服しました。同時代を生きた者として誇らしく思います。
- 初任時の「先輩へのあこがれ」は、その後の教師の在り方に大きく影響を与えたと感じました。授業研に真っ先に手を挙げる姿勢、中堅になった今、忘れてはならないと強く思いました。
- 日々の授業作りの大切さを感じました。同じ研究に向かう研修仲間とのエピソードを伺って心が引き締まる思いです。私も同じ目標に向かい真剣に語れる仲間が出来るように努めたい。
- 「自分は運が良い」を連呼する。何でも前向きに捉える小林先生の姿は素敵だと思ったし、それが子どもたちへのメッセージとして「前向き 仲間思いの姿」に表れたのだと思いました。
- 話を聞いて、やっぱり私たちのやりがいは「子どもを育てる」という事だなあと思いました。
- 人とのつながり、地域とのつながりの大切さに改めて気付かされました。そして理科はやっぱり教材自体を、教師がよく知ることも大切なんだと感じました。
- 見附の子どもを愛する気持ち、教員としての仕事の魅力が伝わってきました。こうした思い出が語れるような教員人生を歩みたいと思いました。